

江戸地に徳川時代が始まると江戸城を中心として各藩 300 諸侯と旗本 8 万余旗の屋敷が建ち並び、各大名や旗本が競って屋敷の表門を豪華に飾り立てた造りとなっていたという。

大名の表門は、現在国立博物館にある旧因州池田家江戸屋敷の表門は壮大な門だが、造りは格式の高い造りである。都内にも残存しているが、江戸中期以降の建物で前期時代の建物は、明暦 3 年正月、振袖火事の名で有名だが江戸一円を丸裸にし、地上に姿を留めたのは半世紀にも満たなかった。残念ながら豪華な表門は現在残っていない。

長屋門の調査資料と関連すると思われる大名屋敷や旗本の表門はどんな造りか気になったので、その系統の本を探していたところ、「江戸城と大名屋敷※」を図書館より借り、ページをめくったところ「江戸図屏風」に見る江戸城と大名屋敷が目にとまりました。この屏風図で華麗な表門が見て取れます。まるでテーマパークのようです。

※ 歴史 REAL 編集部編 洋泉社（下記の写真・一部文章をお借りしました）



井伊掃部頭上屋敷

表門の前に格子の柵があり、町民が行き来している様子が描かれている。柵の一部が開いて、中に入ると表門の右側にある潜り戸が開いている。表門は切妻の屋根で妻の部材に金金物が張られ、正面も細工がされている様子が見える。



加賀藩前田家下屋敷

東京大学の地にあった。当時は下屋敷だったが後に上屋敷となった。楼門の構え。武士たちがそぞろ歩き？



広島家松平安芸守

楼門の構えで屋根は入母屋造り。1,2階の意匠が凝っている。



仙台藩伊達家」(松平陸奥守)

この絵には、二つの門があり、上方の華やかな門は御成門、下方は2階建ての楼門がある。上方の門の前には、女性たちが御成門に見入っている様子が描かれている。



福井藩松平家屋敷

家康の孫である越前福井藩主・松平忠昌の上屋敷。将軍を迎える御成門は、華麗な彫刻で装飾されていた。左が御成門？



左から尾張藩徳川家・水戸徳川家・紀伊藩徳川家の御三家は城内の吹上にあ
り、豪華絢爛。三家とも唐破風で瓦葺きの屋根とした表門。